



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：平澤 理 副会長：藤澤健二 幹事：杉本徳治 公共イメージ向上委員長：市川満貞

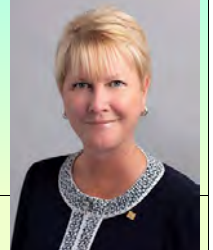


イマジン
ロータリー

2022-2023 国際ロータリーのテーマ

IMAGINE
ROTARY

2022-2023 RI会長
ジェニファー E.
ジョーンズ
＜カナダ（オンタリオ州）＞



第1637回 山口健雄ガバナー補佐事前訪問例会 令和4年10月18日(火)



■ 点 鐘 12:30

■ ソング それでこそロータリー 藤澤健二ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・RI第2600地区上伊那グループガバナー補佐 山口健雄 様
- ・上伊那グループガバナー補佐副幹事 松澤賢次 様
- ・伊那西高等学校教諭 木下亮子先生
- ・伊那西高校IAC会長 立澤陽菜さん
- ・伊那西高校IAC幹事 竹内くるみさん
- ・伊那西高校IAC理事 登内詩織さん

■ 会長談話 平澤理会長



もの思いの季節といわれるのは秋です。大気が冷えて日が短くなってくると、どことなく切ないような感傷的な気持ちに包まれるという人も多いかもしれません。そんな秋の心をそのまま字に表した「愁」は、「うれい」と読んで「もの悲しく寂しい気持ち」の意味を持つ漢字。同じ読み「憂」が、「憂鬱さや不安、心配な心情を表す」のに対して「愁」は、より情緒的なものの悲しさを表します。

万物を成長させた賑やかな春夏を経て、腰を据えて物事に取り組んだり思考を掘り下げたりするのにふさわしいのが、これからの季節、秋冬ではないでしょうか。

「秋」がつく漢字：「鋤」（くわ） 「鰯」（かじか） 「萩」（はぎ）

さて、今年1月～2月に文化庁が国語世論調査を16才以上3600人を対象に行い、その結果が公表されました。

「情報機器の普及で、社会における言葉や言葉の使い方が影響をうけるか。」については90.6%が「影響を受ける」と答えた。そのうち「漢字を手で正確に書く力が衰える」と回答した人は89%に上ったそうです。又、言葉や言葉の使い方については85%が「社会全般に課題がある」と回答。

若い人の中では新しい言葉が使用されています。例えば、「ぶっちゃけ」→「正直なところ」、「半端ない」→「中途半端でない」等。この様な言葉を使う人の割合も多くなってきている様です。

デジタル機器の普及に伴い日常生活や教育現場で文字を書く機会をどう確保するか、改めて手書きの大切さや日本の文化を再確認する必要があるのではないのでしょうか。

■ ニコニコボックス

◆平澤理

ガバナー補佐 山口様、ガバナー補佐副幹事 松澤様、ご来訪心より歓迎致します。又、伊那西高校 木下先生を初め IAC の皆様、活動報告をよろしくお願い致します。



◆杉本徳治

ガバナー補佐 山口様、ガバナー補佐副幹事 松澤様、伊那西高等学校 木下先生、IAC の皆さんを歓迎いたします。

山口様をお迎えしてのクラブ協議会、伊那西高等学校 IAC の皆さんによる活動紹介があります。よろしくお願い致します。

◆田中真人

山口ガバナー補佐・松澤ガバナー補佐副幹事、本日は伊那中央にお越しくござりありがとうございます。また、伊那西インターアクトクラブの皆様、本日は活動報告をよろしくお願い致します。

◆池上幸平

15日、クリーンアップ天竜川大作戦に参加された皆様、大変ご苦労様でした。私は井上さんと池田さんとの班で、お二人方に顎で使われ半日が終わりました。天竜川がきれいになればいいかと思いました。

◆馬場秀則

お久しぶりで出席します。今後も普通の例会で開催されますように。

◆井上修

本日、インターアクトの活動報告宜しくお願い致します。先週の天竜川クリーンアップ作戦にもインターアクトクラブ以外の生徒も誘って参加。又、今週の未来へつなぐ森林づくりにも参加されます。更に 11 月の信州大学の留学生（スリランカ、パプアニューギニア、バングラデシュ、中国等）との交流会を企画。活発に活動されておられます。引き続きのご支援をお願い致します。

ロータリーの友に、私の推薦する本で投稿させて頂いた法政大学の坂本光司元教授の「新たな資本主義のマネジメント」という本が掲載されると事務局から連絡がありました。坂本元教授は会社は売り上げや利益でなく、人を大切にする企業であるべきとの主張を、12 年前に始められ、今や 300 社を超える企業、1,000 人を超える個人が活動に賛同されています。ご一読ください。

■ ご挨拶

・ RI第2600地区上伊那グループガバナー補佐 山口健雄 様



皆様今日は、只今ご紹介を頂きました今年度ガバナー補佐を仰せつかりました、箕輪ロータリークラブの山口で御座います。

15日のロータリー奉仕デー「クリーンアップ天竜川」には、多くの会員の皆様と伊那西高校のインターアクトの生徒の皆さんにご参加を頂きまして誠に有難う御座いました。私は当初、私共箕輪クラブが事務局で、本当に行う事が出来るの

かとても危惧していましたが、昨年度実施して頂きました池上会長様・熊谷幹事様・小椋S A A様が開催して下さいました事前説明会のお蔭で、天竜川上流河川事務所や伊那市役所への申請もスムーズに行う事が出来ました。お陰様で無事に天竜川の河川清掃を行う事が出来ましたが、これは偏に伊那中央クラブの皆様の、温かいご支援があったからこそ心から感謝を申し上げます。

尚、今日はガバナー補佐副幹事の松澤さんと二人でお邪魔をさせて頂きました。

7月に開催をされました「第1回の地区チーム会議」で、私は上沢ガバナーにガバナー補佐の事前訪問では、ガバナーの考えを正確に皆さんにお伝えをしたいと思いますので、全ての補佐の皆さんが同じトーンで話せる様に、パワーポイントによる資料を作成して欲しいとお願いをしました。その結果、上沢ガバナーは「今日の会議で、この様な提案を受けるとは思いませんでした、思いは分かりましたので事務局の皆さんにお願いをして作成をしてもらいます」とご快諾して下さいました。従いまして、今日は事務局から送られて来ましたその資料に、少し此方で追加をしましたパワーポイントに沿って、お話しをさせて頂きますので宜しくお願いを致します。尚、お話しさせて頂きます内容は、既に皆様のクラブ計画書に掲載をされていますので、重複を致しますがお許し頂きたいと思います。

国際ロータリーの会長に、初めてカナダの女性のジェニファー・ジョーンズさんが就任されましたが、ジョーンズさんはR Iのテーマを=大きな夢をかなえたロータリーを想像して=と題しまして「イマジン」ロータリーとされました。

ジョーンズさんは、「その夢を実現させる責任は自分たちにある」と語り、そのためには、多様性・公平さ・インクルージョン、への取り組みを実践してロータリーへの参加者の基盤を広げる事が大切だと言っています。

そして、その三つの言葉の多様性=ダイバーシティ・公平さ=エクイティ・そしてインクルージョンの頭文字を取った、D E Iの活動を積極的に進めようと提案しています。

詳しい内容はクラブ計画書でご確認を頂きたいと思いますが、是非この取り組みを皆さんと一緒に行って参りたいと思います。

続きまして、2600地区の取り組みについてお話しをさせて頂きたいと思いますが、上沢ガバナーが提案されました地区標語は、「ロータリーはみんなを幸福にする」であります。私はこの言葉を信じて、一年間頑張って参りたいと思います。

そして、この目標を達成するために四つの重点項目「青少年奉仕活動」「職業奉仕活動」「友達作り（親睦活動）」「奉仕活動」が設定されましたが「青少年奉仕活動」は既に計画書が提出しておりますし、奉仕デーも終わり、今年から新たに取り組む事になりましたポリオデーにつきましても、今月22日の「未来へつなぐ森林づくり」の中で行われると言う事でありますので、この三項目につきましては割愛させて頂きます。

では職業奉仕活動についてであります。上沢ガバナーはロータリーの基本理念になっていますこの職業奉仕活動について、例会や夜間例会などでそれぞれの皆さんが、自らの職業を通じて行っている奉仕活動について具体的な事例を発表して、お互いの理解を深めて欲しいと提案されています。そして、出来れば幾つかのグループに分かれて、夜を徹して話し合っ欲しいとも言われています。

続きまして友達作り（親睦）の強化です。この2年間コロナウイルスの感染拡大で、地区大会を開催する事が出来ませんでした、11月5日6日に予定をされています地区大会について、上沢ガバナーは全てのロータリアンが上山田に集合して、親睦を深めて欲しいと言っています。

ロータリーの活動で親睦と言う事が、如何に大切かと言う事は全ての皆さんが分かっていますが、今のコロナの感染状況を見ますと、役員の皆さんはどうやって親睦を継続していったら良いか、本当に頭を悩ませておられると思いますが、どうか色々の知恵を出し合っ親睦活動を継続して行って頂きたいと思います。

以上を持ちまして事前訪問説明とさせて頂きますが、どうかこれからも皆様の暖かいご支援ご協力を賜ります様、宜しくお願い申し上げます。



・上伊那グループガバナー補佐副幹事 松澤賢次 様



箕輪ロータリークラブ ガバナー補佐副幹事の松沢です。クラブに入会してから5年目になります。

今年度は副幹事という位置から多くのことを勉強する覚悟で挑みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

■ クラブフォーラム 「青少年奉仕委員会」 井上修青少年奉仕委員長

・伊那西高校インターアクトクラブ顧問 飯田晋作先生ご挨拶（代読・木下亮子先生）



伊那中央ロータリークラブの皆様、こんにちは。伊那西高校インターアクトクラブ顧問の飯田晋作です。本日はお招きいただきましてありがとうございます。そして日頃からインターアクトクラブの活動にご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。



本日は直接お伺いして御礼を述べさせていただかねばならないところですが、所用のためこのような形で失礼いたします。

さて、おかげさまで、本校インターアクトクラブもコロナ禍とは言いまでも、最近では様々な場所に出させていただく機会をいただいております。先日もクリーンアップ天竜川大作戦に参加させていただき、今週末にはますみヶ丘平地林での植林活動にも参加させていただきます。クラブ同士のリアルでの活動も再開し、夏のインターアクト合宿では、他校のクラブ員と初めてリアルで交流する機会を得ました。伊那中央ロータリークラブをはじめとしたロータリークラブの方々のご尽力のもと、このよう貴重な機会をいただき大変ありがたく思っております。

これまでコロナ禍でイベントや活動自体が中止となり、思うような活動ができずに、はがゆい思いをする中、オンラインでも交流できるよう機材を揃えていただいたり、活動の機会をなんとか作っていただいたりとロータリークラブの皆様の温かいご支援の中で何とか活動を続けていくことができました。暗闇の中の一筋の明るい光がロータリークラブの皆様の温かいご支援だったと思っております。お陰様を持ちましてこのように活動ができております。

今年度はリアルでの交流の機会も増えると思います。コロナ前、様々なイベントや行事に呼ばれ、目まぐるしく活動していたあの頃のように活動できればと思っております。しかし、このコロナは活動の機会だけでなく、経験という活動するうえで大切なものも奪っていきました。交流活動、奉仕活動をメインにしていた本校クラブには大きな痛手です。また、活動が制限される中で、私たちの存在そのものも忘れられてしまったのか、イベントが開催されていても声がかからないということもあります。この2・3年で奪われた人と人とが直接結びつく活動を、今年度は取り戻すところから始めなければならないと感じております。

ロータリークラブの皆様の温かいご支援という光に導かれ、なんとかここまで活動することができました。ここからは私たち自身で、その活動の幅をもう一度広げ、経験と人と人とのつながりをもう一度築き直していきたいと考えております。

With コロナの時代の中、オンラインによる交流が今まで以上に広がりました。そういった便利なものを有効に活用しながら、人と人との一つひとつのつながりを今まで以上に大切にできればと考えています。

教育は今、転換期と言われております。大学の入試の制度や評価の指標が変わり、「思考力・判断力・表現力」を養うことが求められています。この力は生徒一人の努力で身につけられるものではありません。様々な人との関わりの中で学び養われていくものであり、学校の中だけではこの能力を養うには限界があるのも正直なところです。その中で、インターアクトのように地域の方々と一緒に活動する場所は学校としても大変ありがたいことです。ボランティア活動や国際交流の機会を活用し、様々な方々と関わることを恐れず、その活動の中で、多くのことを学び、力にできる生徒になってほしいと願っています。

ロータリークラブの皆様にも、生徒たちと関わっていただき、声をかけていただきたいと思います。特に、教員以外の方からの声がけ、アドバイスは、生徒たちには非常に響きます。生徒たちの人としての成長のためにも、是非、ご指導をよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

・伊那西高校インターアクトクラブ活動紹介

会長：立澤陽菜さん 幹事：竹内くるみさん 理事：登内詩織さん



こんにちは、伊那西高校インターアクトクラブ会長の立澤陽菜、幹事の竹内くるみ、理事の登内詩織です。よろしくお願いします。これから、私たちインターアクトクラブの活動報告及び今後の活動予定を紹介いたします。

現在伊那西高校インターアクトクラブは1年生1名、2年生4名、3年生4名、総勢9名で活動しています。活動日は、例会は火曜日と金曜日、そして週末に行われる各種イベント等です。今年度も活動の中心はボランティア活動と国際交流が中心です。

今年度の活動についてですが、イベントや各種施設との交流会で披露することを目的にした、手話歌の翻訳と練習、昨年度学んだ読み聞かせの練習は今年度も引き続き行っています。手話歌は「sekaino owari」さんの「rain」という曲で行っています。色とりどりの傘を使い、少しでも見ている人に楽しんでもらおうと工夫しました。11月に行う信州大学留学生との交流会でも披露する予定です。こちらはその様子です。（動画1分ほど）

今月初めにはレクリエーション講習会を行いました。講師に長野県レクリエーション協会会長の竹中雅幸先生をお呼びして、「笑顔と元気を引き出すレクリエーション活動」をテーマに講習をしていただきました。講習ではどんな人でも簡単にそして楽しくできるレクリエーションを教えていただきました。そして、レクリエーションだけでなく、支援者としてどのようなことに配慮し、どのような態度で行えばよいかという支援者としての姿勢についても教えていただきました。教えていただいたことを今後の活動の参考にし、活動をより充実したものにしていきたいと思っています。このように、イベントや各施設との交流に向けた準備をし、今年度こそは実際に施設の方と交流を行うことができれば良いなと考えています。

先日行われたクリーンアップ天竜川大作戦にも本校インターアクトクラブは参加しました。昨年に比べごみの量は減ったということですが、それでもまだゴミはありました。この川のごみが海に流れ着けば、海鳥や海がめが餌と間違えて食べてしまったり、海洋プラスチックとなって私たち自身にも悪影響が出てしまったりします。ごみをポイ捨てする人はもちろん許せませんが、私達もいつの間にかマスクを落としてしまったり、ビニール袋が風で飛んで行ってしまったりということもあるかもしれません。この活動を通して私たちのごみに対する意識が高まりましたし、周りの人の意識も少しでも高まってもらえればうれしいです。

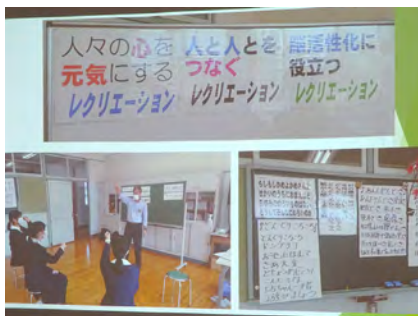
他にも赤い羽根共同募金の募金箱づくりやシトラスリボンづくりなどにも参加しました。積極的にボランティア活動に参加することで、目標とするイベントや施設での交流はできないながらも確実に地域に貢献しているという実感を持つことができています。今後も22日に予定されているますみヶ丘平地林での植林活動に参加する予定です。

国際交流については、8月にインターアクト夏期合宿が行われました。コロナウィルス感染拡大以来、オンライン上でしか各校クラブ員との交流ができていませんでした。私たちにとって初めてのリアル開催ということでもとても有意義なものになりました。国営アルプスあずみの公園で行われ、園内でのオリエンテーションと各校の紹介と出し物という内容で行われました。オリエンテーションでは他校の生徒と話す中で始めは緊張で話が続きませんでした。だんだんと慣れてきていろんなことを話しながら楽しく行うことができました。また各校の紹介と出し物では、他校の活動の様子を聞く中で、自分たちの取り組みをより充実させ、新たなことに取り組んでみたいと思うようになりました。また、私たちの発表では伊那西3択クイズを行い、皆さんに楽しんでもらうことができました。合宿には米山奨学生で留学されている方も2名参加され、日本の印象や日本での生活の様子などのお話を聞き海外への理解を深めることができました。

来月13日には、毎年継続している、信州大学留学生との交流会が予定されています。今年の交流も他国との交流を通して日本とは異なる文化に触れることで異文化理解と興味を深めることも目標に行いたいと考えています。また、最近はコロナ対策も緩和されてきていますので、コロナで今までできなかったことにもチャレンジして、より理解を深められるようにしたいと考えています。

コロナウィルスの影響で昨年度も様々な制限の中で活動してきました。しかし、最近ではwithコロナということで対策も緩和されるようになってきました。今年度こそはできることにどんどんチャレンジして、リアルな活動を通して多くのことを経験したいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



■ 幹事報告

杉本徳治幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。



■ 委員会報告

・ ロータリー財団委員会より連絡

松田靖宏ロータリー財団委員長

(代読・原一馬ロータリー財団委員)



先週の11日(火)、ロータリー財団委員会を米山記念奨学委員会と合同で開催しました。検討議題として、財団への寄付と補助金事業について話し合いを行いました。

1. ロータリー財団への寄付について

ご存じの通り、ロータリー財団の活動は皆様のご寄付によって成り立っています。今年度の地区目標は会員一人あたり150ドルですが、不足分を補うために、1,000ドルを5名の方にご寄付していただけると目標額に達することが出来ます。最近の極端な円安の影響で負担額が大幅に増えてしまっていますが、何卒皆様のご理解とご協力をお願いいたします。後日、ロータリー財団委員会よりお願いにまいりますので、お話のあった方は是非ともご協力をお願いいたします。

2. ロータリー財団補助金事業「未来へつなぐ森林(もり)づくり」について

ロータリー財団補助金事業「未来へつなぐ森林(もり)づくり」が、今週の土曜日22日まで後4日と迫ってまいりました。現在の参加者が、伊那市4名、伊那西インターアクトクラブ9名、アルプスイーなちゃんソフトボールクラブ28名、会員25名、その他NPO等お手伝いをしていただける方を含めると総勢70名近い方が参加の予定です。「未来へつなぐ」という事業名の通り、出来るだけ子供達に植林の体験をしていただきたいと思いますので、会員の皆さんには、作業の進捗状況を見ながら子供たちのお手伝いをお願いいたします。

以上2点ですが、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

・米山記念奨学委員会より連絡 加藤篤米山奨学委員長



米山記念奨学委員会よりご連絡申し上げます。今月は米山月間でありますので、米山記念奨学事業の「2022-2023 豆辞典」を本日配布させて頂きました。豆辞典詳細についてはクラブフォーラムの際にご説明させて頂きますが、事前に目を通していただき米山記念奨学事業について再度ご理解を深めていただきたく存じます。

また、財団同様にロータリアンとしての名誉になり得る特別寄付へのご協力をお願いされた方は、快くお引き受けくださるようお願いいたします。

■ 出席報告

会員数47名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者27名
事前メイク3名 出席率73.17% 前回出席率 修正なし



■ 点 鐘

13:30

次回例会

10月22日（土） 受付開始／9:30～ 場所／鳩吹公園ぽっ歩館

- ・地区補助金事業「未来へつなぐ森林（もり）づくり」
- ・ポリオデー